



地球環境に対する価値創造

環境経営の推進

環境マネジメント推進体制

NTT西日本グループでは、「環境保護活動を推進することは社会とともにある企業の社会的責任である」という考えのもと、「NTT西日本グループ地球環境憲章」を制定し、地球環境の保全に努めています。

この憲章に従い、さまざまな環境貢献指標の管理方法をISO14001を参考に「実行管理プログラム」として編成し、数値による実行度の管理を行っています。

また、各組織における環境法規制の遵守状態、実行管理プログラムの実施状況など、環境保全対象の定着度を各組織が自ら検証することを目的として、環境セルフチェックを年1回実施しています。なお、この環境セルフチェックを客観的な見地から実施するため、監査部門による環境監査を実施しています。

グリーンNTT西日本戦略

NTT西日本グループは電力エネルギーを大量に消費する企業として、自ら積極的に省エネルギーや環境問題に取り組んでいくため、

- 環境グランドデザインの実現
自らの環境負荷を低減することで社会に貢献します。
- 環境・エネルギー事業の展開
ICT利活用による事業活動の展開で環境に貢献します。
- 生物多様性保全活動の推進
社員一人ひとりが、地域の生物多様性保護へ貢献します。

を柱としたグリーンNTT西日本戦略を2012年6月に策定しました。

「環境グランドデザイン」

NTT西日本グループでは、低炭素社会の実現と、循環型社会の形成に向けて、とくに電力使用量削減目標と紙使用量削減目標ならびに廃棄物最終処分率目標を「環境グランドデザイン」として策定しています。

NTT西日本グループ地球環境憲章

基本理念

人類が自然と調和し、未来にわたり持続可能な発展を実現するため、NTTグループ地球環境憲章に則り、NTT西日本グループはグループ会社と一体となって、全ての企業活動において地球環境の保全に向けて最大限の努力を行います。

基本方針

- 1 法規制の遵守と社会的責任の遂行**
環境保全に関する法規制を遵守し、国際的視野に立った企業責任を遂行します。
- 2 環境負荷の低減**
温室効果ガス排出の低減と省エネルギー、紙等の省資源、廃棄物削減に行動計画目標を設定し、継続的改善に努めます。
- 3 環境マネジメントシステムの確立と維持**
各事業所は環境マネジメントシステムの構築により自主的な環境保護に取り組み、環境汚染の未然防止と環境リスク低減を推進します。
- 4 環境技術の普及**
マルチメディアサービス等の研究開発成果の積極的な社会への普及を通じて、環境負荷低減に貢献します。
- 5 社会支援等による貢献**
地域住民、行政等と連携した、日常的な環境保護活動への支援に努めます。
- 6 環境情報の公開**
環境関連情報の公開により、社内外とのコミュニケーションを図ります。
- 7 生物多様性の保全**
生物多様性と事業との関わりを把握し、生物多様性を将来世代に引き継ぐ為に、取り組みを推進します。

環境グランドデザイン

電力使用量削減

・2010年度と比較し、2020年度には
自費電力を**40%以上**、
総電力を**20%以上**削減

紙資源削減

・2008年度と比較し、2020年度には
総紙使用量を**40%以上削減**、
一人あたりの事務用紙使用は
50%以上削減
(参考) 2008年度の総紙使用量は3.99万t
2008年度の一人あたりの事務用紙
使用量は0.99万枚

廃棄物削減

・2020年度には全廃棄物合計の最終
処分率を**1.0% (ゼロエミッション)***に
(参考) 2008年度の最終処分率は2.1%
・撤去した通信設備廃棄物については、
最終処分率**0.1%**を維持

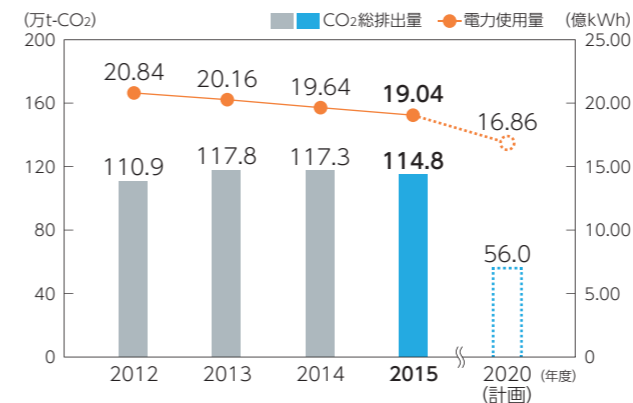
* 国連大学が提唱した構想で、産業から排出される全ての廃棄物や副産物がほかの産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。NTT西日本グループでは、最終処分率1%以下をゼロエミッションと定義。

温暖化対策

NTT西日本グループのCO₂排出要因としては、電力使用・業務用車両使用・燃料(ガス・石油)使用があり、電力使用が要因の大半を占めています。

2015年度は、2014年度に比べ約5,900万kWhの電力使用量を削減しています。

CO₂総排出量・電力使用量の推移



年度	2012	2013	2014	2015
排出係数 (kg/kWh)	0.512	0.562	0.557	0.560

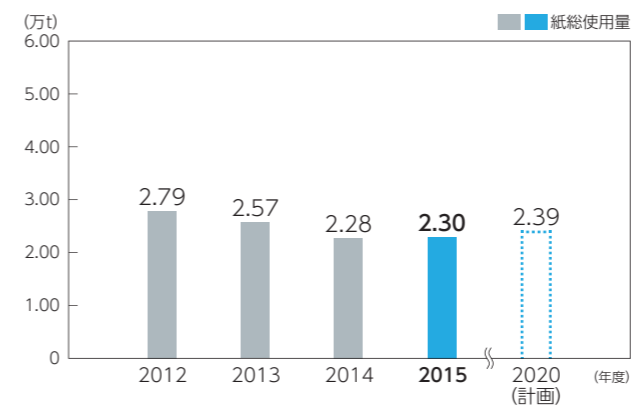
(注) NTT西日本グループが各電気事業者ごとに使用している電力量に応じて、各電気事業者が毎年公表している排出係数を加重平均した値です。

紙使用量削減

NTT西日本グループで使用する紙には電話帳、請求書、事務用紙、電報があります。2015年度の総使用量は2.30万tで、内訳は電話帳1.90万t、請求書0.19万t、事務用紙0.16万t、電報0.04万tです。

ペーパーレス会議の徹底や社内利用用紙のシステム化による徹底的な削減などを進めるとともに、お客さまの

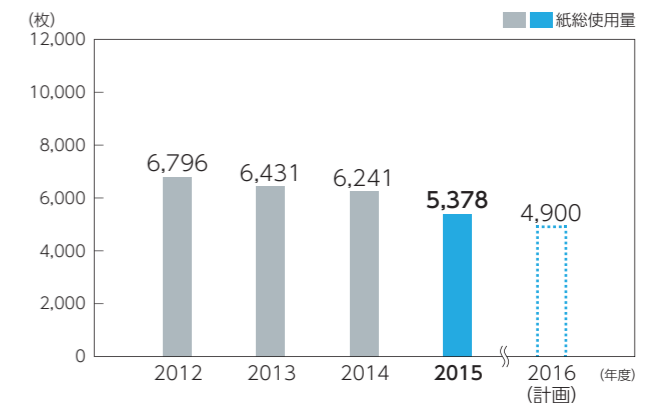
紙総使用量



(注) 「紙総使用量」は今年度より、掲載する数値の集計方針について見直しを実施。

ご協力を得ながら、請求書の有料化などにより紙使用量の抑制を行っています。

1人あたりの事務用紙使用枚数

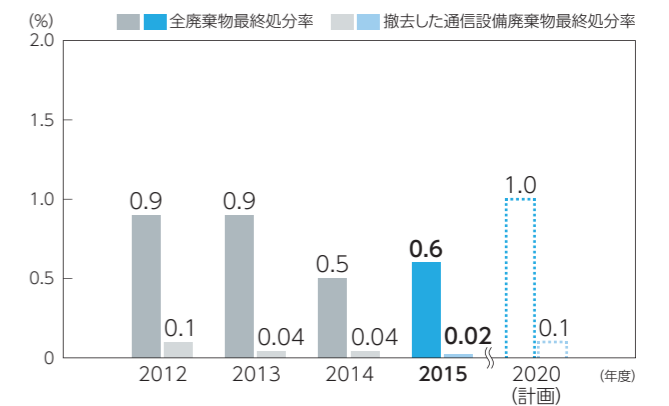


廃棄物最終処分率低減

廃棄物には、撤去通信設備廃棄物、土木工事廃棄物、建築工事廃棄物、オフィス内廃棄物が含まれています。

2015年度の廃棄物の最終処分率は0.6%で2012年度から4年連続でゼロエミッションを達成しました。内訳としては、撤去通信設備廃棄物の最終処分率0.02%、土木工事廃棄物の最終処分率1.0%、建築工事廃棄物の最終処分率0.9%、オフィス内廃棄物の最終処分率0.4%です。

廃棄物最終処分率



生物多様性保全活動(みどりいっぱいプロジェクト)の進捗

全30府県、1万人を目標として、18府県、約2,000人から始まった活動は、2015年度は全30府県、11,045人の活動となり、自治体・NPO法人などと連携した地域保全活動や、植樹活動などが展開されました。

今後も1万人をめざし、地域の生物多様性保全に積極的に取り組みます。

地球環境に対する価値創造

事業活動に関わる環境負荷

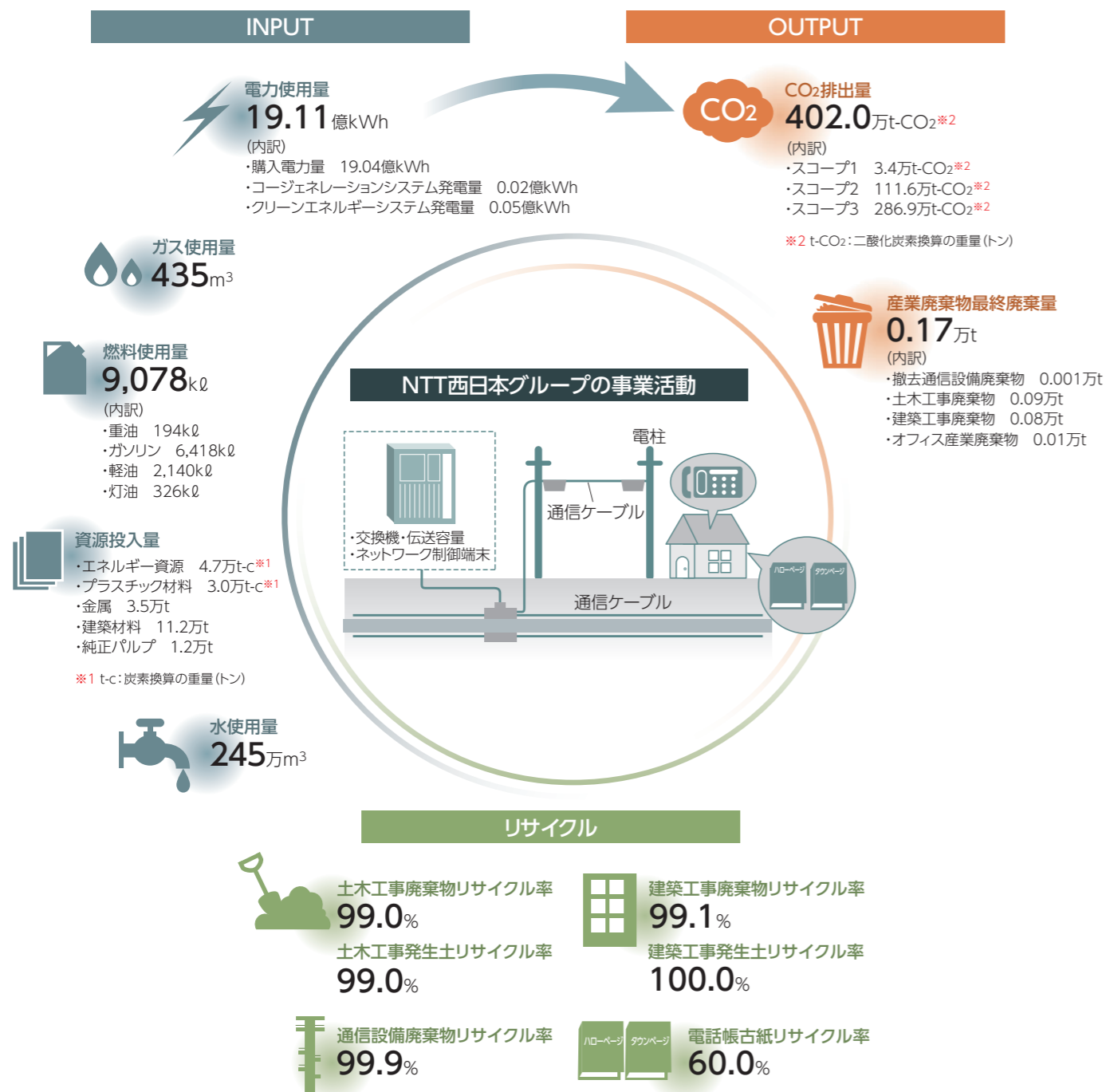
西日本全域で事業を展開するNTT西日本グループは、事業規模も大きく、それだけに相当の環境負荷を与えています。

例えば、お客さまの通話を可能とするためには、電話機、西日本全域に張り巡らされた通信ケーブル、および交換機

などのネットワークが必要となり、それらに関する物流、工事、運用、サービス、商品の提供といった事業活動には大きな環境負荷が伴います。

NTT西日本グループは、下図に示すように、スコープ3 (NTT西日本グループの事業に伴うお客さまやサプライチェーンでのCO₂排出)を含めたマテリアルフローを定量的・定期的に把握し振り返ることにより、継続的な環境負荷の低減に役立てています。

マテリアルフロー



TOPICS

お客さまからのお申込み～回線開通までに利用している紙資源の削減について

光サービスなどの開通においてはNTT西日本グループ内の多数の組織が関わり、各々の組織間での注文情報の受け渡しに加えて、各組織内での確認作業などにおいても大量の紙を使用していました(2010年時点で毎月約673万枚の事務用紙を使用)。

事業を通じた価値創造に向けて、単に紙使用量を削減するだけでなく、紙使用量の削減に合わせた業務の効率化およびセキュリティ事故の未然防止を図るため、NTT西日本グループ内で注文情報を扱う組織間において、注文情報を電子的に自動で次の組織に送る新システムを導入しました。また、これまで紙に印刷していた注文内容を、業務フローを見直して紙に印刷することなく自動で電子データ化し

保存するなどの対応を行いました。これらの取り組みによりファックス送信枚数や印刷枚数の大幅な削減につなげることができました。

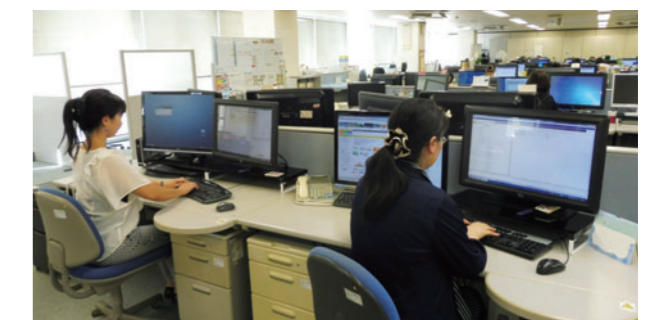
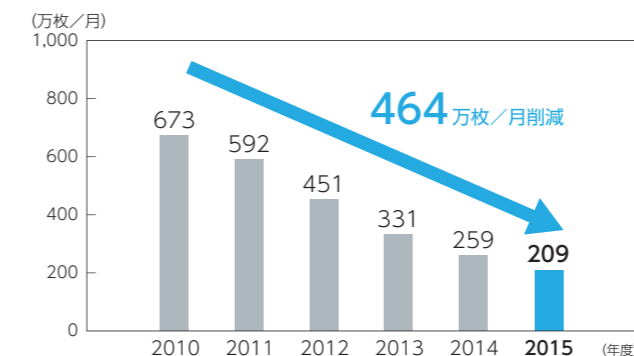
これらの取り組みにより、紙資源の削減効果は、毎年約1,114万枚(92.8万枚/月×12カ月)に達し、これは1年間で約400本のパルプ木材を保護※していることとなります。

また、紙の生成段階で生じるCO₂についても、年間で274万t-CO₂を削減していることとなり、これは約18,000本の杉が1年間に吸収できる量に相当します。

今後は故障対応組織などの紙使用量削減に取り組むことで、さらなる地球環境の保全に貢献していきます。

※ 利用している事務用紙は古紙配合率70%として計算。

光サービスの開通処理における事務用紙の削減状況



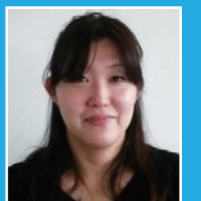
電子システムの利用に切り替えたことで紙使用量を大幅に削減
NTTマーケティング アクト 中国支店 サービス推進部 中国SOCセンタ(山口)

担当者の声 紙使用量を削減して地球環境の保全に貢献

環境保護に向けて紙利用の削減に取り組まなければならないことは理解しつつも、長年定着した紙を使った業務プロセスを見直すことは、現場から不安の声が多数ありました。

そこで支店と協力して先行トライアルによる課題の洗い出しに取り組み、安心して利用できる業務プロセスを確立することができました。支店の皆さんの頑張りによって定着化を図ることができ、紙使用量の削減につなげることができました。

今後も取り組みの拡大により、さらなる紙使用量の削減を進めていきたいと思ひます。



NTT 西日本 技術革新部 ITイノベーション部門 山本 聖子